

<産地レポート>

和歌山県JA紀州

緩効性肥料「IB604」を使用したブロッコリーのご紹介

ジェイカムアグリ(株)「農業と科学」編集部

JA紀州は、2014年4月に3つのJA(みなべいなみ 紀州中央 グリーン日高)が合併し発足しました。JA管内の御坊市は、色々な園芸作物が栽培されています。春はウスイエンドウ、夏はナスやゴーヤの栽培が盛んで、秋冬園芸ではブロッコリーを始めキャベツ・白菜が作られており、収穫物は主に京阪神に出荷されています。和歌山県のブロッコリーは近畿で1番作付面積(平成26年137ha)があり、中でも御坊市は特に栽培が盛んに行なわれている地域です。そこで、今回はブロッコリー栽培の模様とそれに使われているIB604についてご紹介いたします。

JA紀州のブロッコリー栽培は9月頃定植~12月収穫が主で10月定植~1月収穫もあります。このブロッコリー栽培で使用されている緩効性肥料「IB604」は、30年以上前から御坊市の農家に愛用されているロングセラー商品です。「IB604」は、全チッソ成分16%の内、肥効が持続するIB態チッソが約50%で、施肥の省力化(追肥量削減)が可能となっています。また栽培農家の方からは収量も良く、秀品率の高いブロッコリーが出来る肥料だと高い評価を頂いています。

IB604(くみあいB複合磷加安604号)成分含有量 (%)

チッソ	リンサン	カリ
16.0	10.0	14.0

※全チッソ成分の約50%がIB態チッソです

寺口営農センター長さん
(JA紀州 日高川営農センター)の圃場
*IB604を使って頂いています。

2016年2月撮影

